

社会福祉法人そよかぜの機関紙

第118号

発行2014.7.20

年4回発行



社会福祉法人そよかぜ

羽村市栄町3-3-1

☎042-578-0855

fax.042-578-0466

そよかぜだより

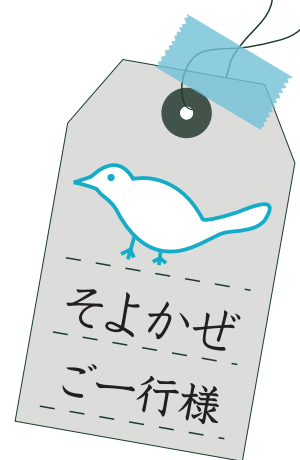


一年を彩る行事

【特集】

一般的に「行事」と言えば学校の運動会や遠足などを連想される方も多いかと思いますが。

障害のある人たちが通う私たちの作業所でも様々な「行事」を行っていますが、障害があるとはいえ大人になって行う「行事」にはどんな意味やねらいがあるのか、ご紹介します。



ひばり園の場合

ひばり園にはまじめな利用者さんが多く、日一途に仕事に取り組んでいます。中には作業所が休みにならないと自分も休めない、という人もいます。その休みの時間や仕事が終わった後、休日などに、することがない、仲間がいないなど余暇の時間の過ごし方に苦勞する人も少なくありません。最近では障害者に付き添って外出を支援するガイドヘルパー制度を利用し、好きなお店へ出かける人も増えてきましたが、すべてのニーズに応えることはできません。「行事」はこうした時間を日頃一緒に頑張っている仲間と、気分転換を兼ねて、すてきな風景を見て美味しい物を食べ、陽に当たって身体を動かす、大事なリフレッシュの時間になっています。

また、障害のある方の多くは、人の温かい気持ちや思いをわかりながらも、どの様な距離で関わったらいいか、どんなふうと一緒に過ごしたらいいのか分からず、怖気づいて

しまう方も多く見られます。これはすぐに出来なくても、慣れていくことは可能です。こうした人とのコミュニケーションも、「行事」でのいろいろな体験を通して、普段一緒にいる利用者さんと職員と「良い加減」で過ごせるようになるための貴重な機会でもあります。

スマイル工房の場合

スマイル工房には、日帰りバス旅行、宿泊訓練、クリスマス会を三本柱とした大きな行事と、スポーツや歌、調理実習、いも掘りなどの半日行事、その他、初詣や夏祭り出店等、様々な行事、イベント活動があります。

半日行事では、作業だけでなく、楽しく身体を動かして気分転換をする機会を提供する事で、「身体を動かしたり歌ったりする事も悪くないな、楽しいな」と思ってもらえたら、何よりと思っています。もう一つの活動である調理実習は、皆で作って皆で食べる食事の美味しさと喜びを味わっていただき、

「美味しかったから、家でも作ってみたい」と言ってもらえれば成功です。

三本柱となっている大きな行事の特徴は、「皆で作ること」です。まず、行事を企画するにあたり、皆の意見やアイデアを出し合う事から始まります。どんな風にしたら多くの人が参加できるのか？話を進める中で、自分の希望だけではなく、他人の意見や事情も知ることになります。その中でお互いに譲り合うなど、プラン実現の為、現実的な問題に直面しながら、できる限り皆の希望を叶え、形にしていく過程を経験します。その後は、実行委員を中心に、準備に取り掛かりますが、最近は出来る事を無理の無い範囲で少しずつ分担するという形になっています。参加の呼びかけや、ポスター作り、ゲームの内容を考えたり、その人自身が余興で皆を楽しませたり、自分達で作る行事だからこそ、参加できた喜びもまた違うものと信じています。

【特集】

一年を彩る行事



ひばり園は毎年決まって行う行事とそうでない行事があり、その全部に参加できる人、参加できない人がいます。参加できない人の興味を引くような行事も企画し、前述したようなねらいを達成して頂くような工夫も行っています。他にも、入所式、お別れ茶話会、クリスマス会、初詣、書初め、節分の豆まき、年度納め会などなど、季節を感じられるような行事も行っています。

お花見



新しい仲間を歓迎し、親睦を深めます。

スポーツ大会



ボール投げちゃった！
とっても楽しかったです。

かき氷



暑い夏、涼を味わうために、
みんなでかき氷を作って食べます。

日帰り旅行



ふじとうがいの木を
楽しかったです。

おやつ作り



チョコレートパイを作りました。
甘くて、おいしかったです。

新年会



ホーリングのストライク、
ピンが当たったところとても楽しかった。

就労移行支援では、企業就労を目指す事業所ならではの行事や視点があります。公共の場へ出かけることで、行動や身だしなみなどの社会性を見ることができます。障害のある方が企業で働くことは、簡単ではないことが多くある分、余暇を充実させることも重要になります。就職後には自ら予定を立てて、充実した余暇を過ごすことが出来るようになることを期待しています。



写真左から調理実習 お花見散歩 カラオケ



日帰りバス旅行

今年はお台場でレインボーブリッジを見ながらおしゃれなバーベキューを満喫しました。現地では、セッティングや材料の準備を協力して行い、集合時には誰も遅れることなく集合、次のフジテレビへ出発。幹

事にとっては本当に有難いメンバーさんです。皆都会の楽しさと、緊張感の二つを味わい、症状のコントロールをしながら行きたい所へ行き、楽しめたという自信が、次の宿泊訓練へと繋がります。

大きなフジテレビにおどろきました。もっといろいろなところに行きたい。



一泊旅行(宿泊訓練)

宿泊訓練は、遠方に出かけるだけではなく、他人と寝起きを共にするという、経験の無い利用者さんにとっては未知の世界へ足を踏み入れる、ドキドキする様な行事かもしれません。それでも、同じ部屋の人とお風呂へ行ったり、テレビのチャンネル権について話し合ったり、おしゃべりに夢中になったり、静かに休んだり、それぞれ皆貴重

な経験と思い出を作って帰ります。去年は、白樺湖で一泊、山梨、長野で蕎麦打ち体験や、お菓子工場見学等、ワクワクするような初体験をしました。

そば打ちは、こう大変だったけどそばはおいしかった
アイスもおいしかった



クリスマス会

クリスマス会は、実行委員を中心に、食事のアンケートを取ったり、参加費やプログラムを決めたり、ポスター作りや景品の準備等、それぞれが、自分の出来る事を出来る範囲で協力して作り上げていきます。会の中では普段は見られない利用者さんの特技が見れる等、お互いに新しい発見が出来、毎年大いに盛り上がっています。

いつもくじで良い物当たって良かった。



スマイル工房の利用者さんにとって行事に参加することは、楽しみと同時にリスクも伴います。慣れない環境の中で、不安や疲労により、不安定な状態に陥る事もあるからです。それでも私たちは、行事を通して普段は経験出来ない様な楽しみを味わってほしい、色々な体験を重ねて欲しい

と思うのです。
不安だったけれど、勇気を持って参加してみたら、「楽しかった」、「参加して良かった」、「次も参加したいです!」と言ってもらえる事が私たちにとっての最高のプレゼントです。
これからも利用者さんの、喜びと自信に

繋がるような行事をみんなで作っていきけるよう、スタッフ一同頑張ります。
上記のほかにも、スポーツレクリエーション、西多摩フレンド交流会、はむら夏祭りでの模擬店出店など行っています。

平成25年度 事業実績報告概要

堀内政樹 社会福祉法人そよかぜ施設長

本年1月20日に、我が国も「障害者の権利に関する条約」(障害者権利条約)を批准しました。本条約は、障害者に関する初めての国際条約であり、主な内容は、「障害に基づくあらゆる差別の禁止」、「障害者が社会に参加し、包容されることを促進」、「条約の実施を監視する枠組みの設置」などです。本条約の批准に合わせて、障害者基本法の改正、障害者総合支援法の成立、障害者差別解消法の成立、障害者雇用促進法の改正など、国内法の整備も順次すすめられました。そよかぜもこうした社会情勢を踏まえ、各事業のさらなる向上を図るべく一年間努めてまいりました。特に、福祉作業所ひばり園・スマイル工房、就労支援センター・エールでは、多くの施設見学者や相談者があり、地域の障害者就労ニーズの一層の高まりを見ているところです。

本年度、各事業の実施状況は、概ね次のようになりました。

本部事務局に総務部門を新設しました。業務内容の確立から遂行まで試行錯誤の一年でしたが、福祉作業所ひばり園の新卒及び中堅職員採用事務及び研修等について連携するなど、まずまずのスタートができました。経理部門では、社会福祉法人の「新・会計基準」の平成27年度実施に向けて、顧問会計事務所担当者による役員向け学習会の開催や、新・経理規程(案)の作成を行うなど準備を進めました。

各事業の実施状況

福祉作業所ひばり園就労移行支援事業では、2名が一般企業に、1名が就労継続支援A型事業所へそれぞれ就職することができました。

福祉作業所ひばり園就労継続支援B型

事業は、本園、出張所(リサイクルショップくれよん)ともに、協力企業や他施設との協働・連携も含め活発な授産活動ができました。

福祉作業所スマイル工房は、初めての「東京都福祉サービス第三者評価」を受審し、長所・短所ともに明確化され事業品質の向上に役立つ情報を得ることができました。授産活動も順調に推移しました。

グループホームほほえみ館及び**宿泊訓練施設つくしの家**はともに大過なく一年を過ごすことができました。

羽村市障害者就労支援センター・エールは、本年度から常勤1名増の予算措置がとられ正規職員1名、非常勤職員1名を新たに採用し、増加する地域の障害者就労ニーズへの対応力強化に努めました。

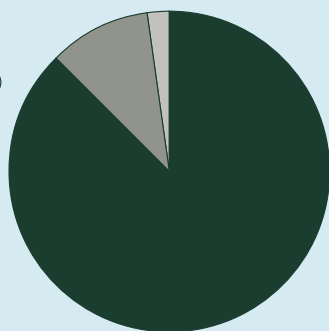
資源回収事業は、市民、地元企業等のご協力により、前年度並みの実績が確保できました。

平成25年度 社会福祉法人そよかぜ決算(資金収支)結果

【事業別支出内訳】

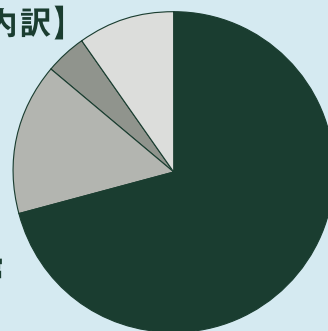
法人総支出額 ¥192,716,667
(法人総支出額は内部取引調整後)

社会福祉事業	¥192,879,807	88%
公益事業	¥23,002,948	10%
収益事業	¥4,455,781	2%



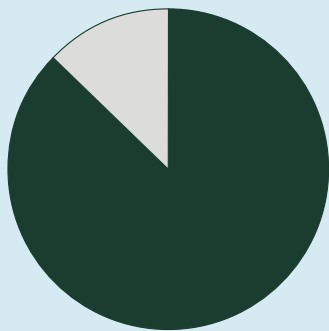
【社会福祉事業支出内訳】

法人本部	¥19,077,946	10%
福祉作業所ひばり園	¥136,678,682	71%
福祉作業所スマイル工房	¥29,433,595	15%
グループホームほほえみ館	¥7,689,584	4%



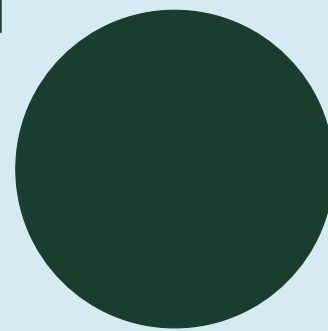
【公益事業支出内訳】

就労支援センター エール	¥20,324,061	88%
宿泊訓練施設つくしの家	¥2,678,887	12%



【収益事業支出内訳】

資源回収	¥4,455,781	100%
------	------------	------



※決算報告書の詳細は法人ホームページ上に掲載しますので、そちらをご覧ください。

【そよかせコラム】平成23年2月号より掲載

知的障害の人は「存在意義」など問いません

一日、二日を大切に生きます

その積み重ねが人生だというように

「遊びせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけん。遊ぶ子ども

の声きけば、我が身さえこそ動が

るれ」。この歌は今から千年も前の

平安時代に、庶民が巷で歌っていた

ものだそうです。楽しそうに遊

んでいる子どもたちを見てみると、

子どもというものは遊ぶためにこ

の世に生まれてきたように思える。

夢中ではしゃぎ廻っている子ども

たちの声を聞いてみると、あくせ

くしている自分が恥ずかしくなっ

てくる、といっています。

この歌が収められた梁塵秘抄と

いう書物は知らなくても、これな

うかと考えて、ふとこの歌を思い

出したのです。

私の息子は重度障害者で施設に

いますが、私が面会に行くとい

へん喜びます。車椅子に乗って近

くのレストランに行き、大好きな

甘いものが食べられるのでうれし

いのです。私は72歳で、人生も晩

年になりました。さらに年をとれ

ば、面会に行くことも難しくなる

日がくることでしょう。しかし知

的障害の息子はそんなことには無

頓着です。いま自分が経験してい

る現実が変わらず永遠につづくも

当の本人は「今日はよくがんばっ

たね」といつてくれる職員の言葉

に満面の笑みをたたえて一日を終

わり、それで何も不満はないよう

です。過去を悔やんだり、未来を思

って深刻な気持ちで過ごす人生が

よいのか、それともそんなことに

は無関係で目の前のことだけに集

中し、そのような日々を積み重ね

て終わる人生がよいのでしょうか。

先日、あるサークルに招かれて

話をする機会がありました。そこ

に参加した人たちは私と同年代の

人が多く、家族に障害者を抱える

人たちでした。最晩年になって「自

分の人生は失敗だった」と悔やむ

ことほど悲惨なことはないが、死

の床で振り返って「満足だった」と

「青年よ大志を抱け」のような教

訓は、一歩間違えると分不相応な

野望を植えつけることがあります。

人生を必要以上に重大に考え、そ

の意義や目的にとられ過ぎる危

険があります。知的障害の人たち

はそのような危険とは無縁の世界

で生きています。

前のそよかせだよりでも紹介し

たことがあります。ダウン症の

長男と、その介護に疲れ果てた妻

を、妻に懇願されてナイフで殺害

した夫に対する裁判がありました。

懲役7年の判決を言い渡した裁判

長は最後に「長男がダウン症で生

まれたことには意味がある、あな

たが生き残ったことにも意味があ

る。だから残された人生を有意義

ないことだけは確かです。そんな

大げさなことはどうでもいい、いま

目の前にあることだけで十分な

だといっているように見えます。

とかく私たちは彼らを見て「日常

茶飯事のささいな事だけにとらわ

れて一生を終わるつまらない人生

だ」と思いがちです。しかし実は

私たちの方が余計な理屈にとらわ

れて自分を不幸にしているのかも

せれません。いずれみんな帰る日

のために、遊ぶ子供と同じように

一刻一刻を大事にする、それを積

み重ねる、それでいい、人生とは

そんなものだ、と彼等はいつてい

ます。

前に、こころみ学園の川田先生

が、知的障害者の最後は誰もすべ

ロボット産業の新たな挑戦

政府が企業や大学と共同で「ロボット手術室」の開発に乗り出すことになりました。日本の産業用ロボットの高い技術を医療分野に応用する研究に力が注がれています。手術用ロボットとは自動で動いて手術を行うロボットではありません。器具の先端が自由に動き、人間の手よりも正確に細かい作業を行う補助的な機械装置です。手術では、血管や内臓

などを縫う作業には高度な技術が必要でした。手術用ロボットにより、縫い合わせや取りづらい場所にあったがんの切除がしやすくなり、傷口も小さくすむことから結果的に患者への負担も軽減できる長所があります。ほかにも医師の手の震えなど、不要な動きを自動で補正する機能もついています。手術では精密な技術が求められますが、ロボットの力を

コラム「福祉の時をつかむ」

借りることでこれまでよりハードルを低くしてくれる面もあります。日本では、数年前から前立腺がんの分野で医療保険の対象になりました。しかし、欧米では10年以上前から手術用ロボットは使われているものの、日本では医療機器として認可されるまでに時間がかかるという課題があります。医療分野での日本のロボット技術が期待されます。

そよかぜホームページ <http://soyokaze-hamura.com>

各事業所からのお知らせ



福祉作業所ひばり園

5月23日に富士見公園でスポーツ大会を行いました。昨年は雨天中止になってしまったため、今年はその分も!といわんばかりに晴天の下、ソフトボールとグラウンドゴルフで心地よい汗をながしました。練習の成果もあり、ホームラン賞とホールインワン賞が出ました。利用者さんと職員が一緒になって応援し、大いに盛り上がりました。

就労移行支援では調理実習を行いました。第1回はお弁当、第2回では餃子を作りました。初めての料理に苦労しながらも、分担・協力しあい美味しい食事が出来ました。食への関心を深め、日々の

生活に感謝することを学んでいます。また、今年度第1号となる就職者が決定しました。利用者が互いに刺激しあい就労への意識を高めている今日この頃です。

リサイクルショップくれよん

店内には涼しげなガラス食器もたくさん並び、セールも予定しています。夏も近づき、浴衣も多数そろえています。浴衣を着て、夏祭りや花火大会に出かけるのも風流ですね。みんなで作ったポプリ(福祉祭りにも展示しました)もおかげさまで完売しましたが、大好評のため引き続き製作販売中です。

福祉作業所スマイル工房

6月より夏季限定メニューのカレーパン、ピロシキの販売を始めました。4月からの新メニューのベーコンエピも好評をいただいています。第39回はむら夏まつりに模擬店の出店を予定しています。今年もジャンボフランクと飲み物の販売をします。出店予定は7月26日(土)ですが雨天などによる中止の場合は7月27日(日)

に出店する予定です。

障害者就労支援センター エール

「エール」は、羽村市より社会福祉法人そよかぜに委託された障害者就労支援事業です。羽村市在住の障害のある方を対象に、就職を希望している方や働いている方等からの相談を受け、支援を行っています。

利用時間：月曜日～金曜日、午前9時～午後5時。今年度の第一土曜日開所は、8/2、9/6、10/4、11/1、12/6、2/7、3/7です。※ご相談には予約をお願いします。

宿泊訓練施設つくしの家

将来の施設入所やグループホーム入居、地域での自立生活等への移行を円滑に行うことを目的としています。

グループホームほほえみ館

今年の梅雨はどしゃ降り。雹、雷と悪天候が続く中、利用者4名は世話人さんの献身的なサポートもあって仕事を休むことなく生活を送っています。

資源回収のお問合せは「そよかぜ」へ。

編集後記

先日、友人とこんな話をしました。「生きるために働くのか? 働くために生きるのか?」と。私は前者だと答えました。ひばり園で働く日々は、微力でも社会に貢献していると実感できるのですが、なぜ前者なのか。それは余暇の時間にも楽しみがあるからです。勤務時間も余暇の時間も、どちらも自分の人生の中の大切な時間です。時には落ち込んで悲しくなることもありますが、できるだけ明るい気持ちを持って、笑顔ですごしたいと思っています。「笑う門には福来る」と、なりますように。

各事業所の連絡先

社会福祉法人そよかぜ事務局 ☎042-578-0855

福祉作業所ひばり園 ☎042-555-5512

福祉作業所スマイル工房 ☎042-578-2723

リサイクルショップくれよん ☎042-578-2575

羽村市障害者就労支援センター エール ☎042-570-1233

羽村市中心身障害者宿泊訓練施設つくしの家 ☎042-579-6849

グループホームほほえみ館 ☎042-578-2875